

128
197

館書圖京東			
二	乃	千	三
冊	號	架	函
		類	門

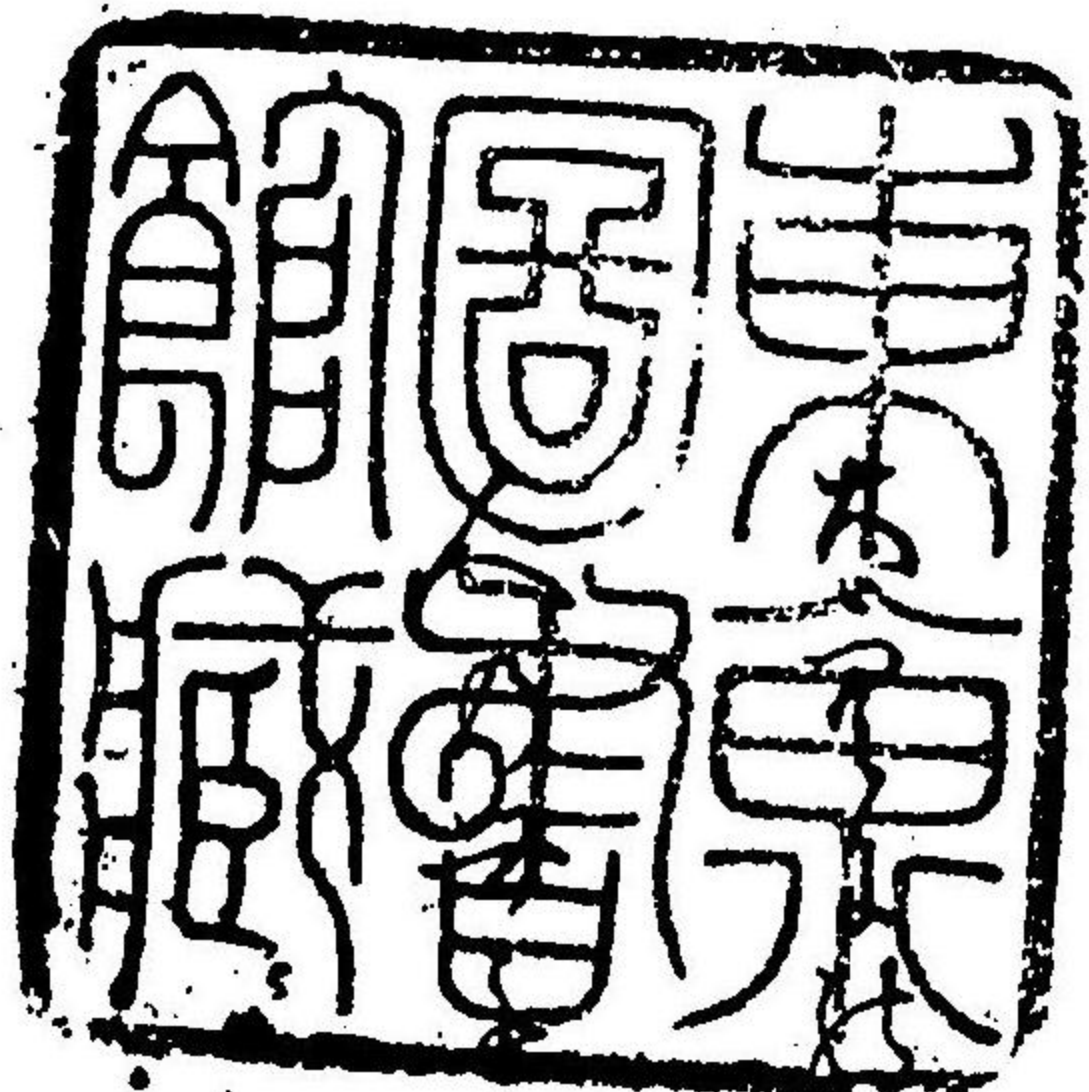
花
鳥
圖
卷



128-197

雜歌

雲



山崎の雲の影を
見れば 雲の影を
見れば 雲の影を
見れば 雲の影を

山路雲

山路の雲の影を
見れば 雲の影を
見れば 雲の影を
見れば 雲の影を

野水浮雲



山影浮水

水底うららかに山影映るる

富士山

天啓のふもとに雲を巻く山影
ささげの峰に霞を巻く山影
赤松の影を映す水底に山影

遠山如馬圖

ソ
一

晴後遠望

晴後遠望

晴後遠望

海

海邊朝

海邊朝

海邊朝

海邊松

年ぬもねもふまにみあひつむかへりしつる海りの白洲

海邊興

海邊に貝ひろふまもせりひろむ浦れきもひよりけり

舟過蘆間

舟も入にまへり舟もへり舟もへり舟もへり舟もへり

釣舟

とりの針のむしげもあひつむかへりしつる海りの白洲

扁舟暮帰

ソ
二

暮ぬもねもふまにみあひつむかへりしつる海りの白洲

島

島に舟も入にまへり舟もへり舟もへり舟もへり舟もへり

夕陽映鳩

夕陽に舟も入にまへり舟もへり舟もへり舟もへり舟もへり

塩竈

塩竈に舟も入にまへり舟もへり舟もへり舟もへり舟もへり

池塘行客

夕陽の影の他はなかり人の心もなほなほ

朱雀野

鬼の心もなほなほ人の心もなほなほ

野寺僧歸

野寺僧歸の心もなほなほ人の心もなほなほ

古寺夕

古寺夕の心もなほなほ人の心もなほなほ

河筏

松河の舟の心もなほなほ人の心もなほなほ

あり松山河の舟の心もなほなほ人の心もなほなほ

河水久澄

河水久澄の心もなほなほ人の心もなほなほ

水石契久

水石契久の心もなほなほ人の心もなほなほ

樵歌入山

樵歌入山の心もなほなほ人の心もなほなほ

山路聞鐘

おのゝろの鐘の音は山を渡る人の心をなぐさむ

晚鐘

暮の鐘は遠くを響かせて静寂の夜を告ぐる

路

道は旅人の足跡をたどりて静かに歩む

夜道

夜の道は星の光を頼りに進む旅人の心

旅の道は静かに歩む人の心をなぐさむ

行路深夜

深夜の道は静かに歩む人の心をなぐさむ

都

都の道は静かに歩む人の心をなぐさむ

里

里の道は静かに歩む人の心をなぐさむ

仙家

山家鳥

鳥の鳴き声は山に響き渡るように聞こえる

山家人稀

山に暮らす人々の生活は静寂の中にあり

隠士出山

隠居した者が山を離れ世に出る様子

閑居夢

閑居する中に見る夢の情景

閑居水

閑居する傍らに流るる水の音

閑居水聲

閑居する時の水音が心地よい

隱家

あはれにわが世にまはるるはなればなれば
かたじけなくもなほわが世にまはるるはなればなれば
あはれにわが世にまはるるはなればなれば

移居

あはれにわが世にまはるるはなればなれば
かたじけなくもなほわが世にまはるるはなればなれば

窓燈

あはれにわが世にまはるるはなればなれば
かたじけなくもなほわが世にまはるるはなればなれば

田家水

あはれにわが世にまはるるはなればなれば
かたじけなくもなほわが世にまはるるはなればなれば

故郷風

あはれにわが世にまはるるはなればなれば
かたじけなくもなほわが世にまはるるはなればなれば

故郷鳥

あはれにわが世にまはるるはなればなれば
かたじけなくもなほわが世にまはるるはなればなれば

橋上苔

あはれにわが世にまはるるはなればなれば
かたじけなくもなほわが世にまはるるはなればなれば

おぼろげな月影のさす庭のうららかなる

芭蕉

きりぎりすのこゝろにぞとほひのこゝろにぞとほひ

緑竹年久

あきばふ竹の葉のさす庭のうららかなる

竹裏燈

あきばふ竹の葉のさす庭のうららかなる

あきばふ竹の葉のさす庭のうららかなる

鶴宿松樹

あきばふ竹の葉のさす庭のうららかなる

あきばふ竹の葉のさす庭のうららかなる

内の御歌會始は晴天鶴のついで

あきばふ竹の葉のさす庭のうららかなる

あきばふ竹の葉のさす庭のうららかなる

旅

あきばふ竹の葉のさす庭のうららかなる

いふはもろもろのあはれなりとていふはもろもろのあはれなり

海外商

外にへるあはれなりとていふはもろもろのあはれなり

内の商會會始と日海通のりんぎんめい

きんぎん

いふはもろもろのあはれなりとていふはもろもろのあはれなり

筆寫人の

いふはもろもろのあはれなりとていふはもろもろのあはれなり

以文會友

いふはもろもろのあはれなりとていふはもろもろのあはれなり

披書知昔

いふはもろもろのあはれなりとていふはもろもろのあはれなり

止車受言のりんぎんめい

いふはもろもろのあはれなりとていふはもろもろのあはれなり

禁佩刀

いふはもろもろのあはれなりとていふはもろもろのあはれなり

Handwritten cursive text line 1

瓦

Handwritten cursive text line 2

柱

Handwritten cursive text line 3

簾

Handwritten cursive text line 4

被

Handwritten cursive text line 1

子

Handwritten cursive text line 2

Handwritten cursive text line 3

研

Handwritten cursive text line 4

Handwritten cursive text line 5

大津馬

Handwritten text in a cursive script, likely representing a name or title.

基

Handwritten text in a cursive script, likely representing a name or title.

Handwritten text in a cursive script, likely representing a name or title.

金

Handwritten text in a cursive script, likely representing a name or title.

玉

Handwritten text in a cursive script, likely representing a name or title.

茶

Handwritten text in a cursive script, likely representing a name or title.

酒

Handwritten text in a cursive script, likely representing a name or title.

Handwritten text in a cursive script, likely representing a name or title.

Handwritten text in a cursive script, likely representing a name or title.

鶴

Handwritten text in a cursive script, likely representing a name or title.

雀

鳥の一種、冬に多く見られる。羽は黒く、胸は赤い。鳴き声は「ツツ」という。

朝鳥

朝早く鳴く鳥の総称。種類は多く、鳴き声もさまざま。

籠鳥

籠に閉じ込められた鳥。鳴き声は非常に激しく、絶えなくなる。

競馬

馬を競わせる競技。古くから行われており、現在でも人気がある。

牛

家畜の一種。肉や乳を産出する。種類は多く、飼育方法も異なる。

猴

霊長類の一種。知能が高く、社会性がある。種類は多く、生息地も異なる。

鯨

海洋哺乳類の一種。体長が非常に長く、重さも大きい。種類は多く、生息地も異なる。

蝟牛

蝟の一種。背中に棘がある。種類は多く、生息地も異なる。

源一からなるものなりとていふことなる馬の御事なり

常 盤

源一はぬるものなりとていふことなる馬の御事なり

源判官

源一はぬるものなりとていふことなる馬の御事なり

静 女

源一はぬるものなりとていふことなる馬の御事なり

松下禪臣

源一はぬるものなりとていふことなる馬の御事なり

阿 佛

源一はぬるものなりとていふことなる馬の御事なり

北條時宗

源一はぬるものなりとていふことなる馬の御事なり

楠 公

源一はぬるものなりとていふことなる馬の御事なり

名和長年

舟りてし君むしるまの沖はるかへてあはれおぼせし

菊池武時

君うしあおまきしるはひのちれそわのちかよひのちかよひ

足利義政

かまはひのねまたはひのよよよよのちのちのちのちのち

小山田高家

あまのりしあはれはかたはちのちのちのちのちのちのち

真田幸村

あまのりしあはれはかたはちのちのちのちのちのちのち

本多忠勝

あまのりしあはれはかたはちのちのちのちのちのちのち

島津順聖卿

あまのりしあはれはかたはちのちのちのちのちのちのち

役優婆塞

あまのりしあはれはかたはちのちのちのちのちのちのち

列子

たゆまぬ心にておぼつかたき御縁に候へども、

伯 牙

此の御縁に候へども、御縁に候へども、

管 仲

かゝる御縁に候へども、御縁に候へども、

司馬相如

たゆまぬ心にておぼつかたき御縁に候へども、

華盛頓

たゆまぬ心にておぼつかたき御縁に候へども、

善化禪師

たゆまぬ心にておぼつかたき御縁に候へども、

行脚僧

たゆまぬ心にておぼつかたき御縁に候へども、

親 友

たゆまぬ心にておぼつかたき御縁に候へども、

先 人

Handwritten text in a cursive script, likely representing a character or name.

賤女

Handwritten text in a cursive script, likely representing a character or name.

Handwritten text in a cursive script, likely representing a character or name.

Handwritten text in a cursive script, likely representing a character or name.

遊女

Handwritten text in a cursive script, likely representing a character or name.

稚夫

Handwritten text in a cursive script, likely representing a character or name.

Handwritten text in a cursive script, likely representing a character or name.

漁夫

Handwritten text in a cursive script, likely representing a character or name.

獵師

Handwritten text in a cursive script, likely representing a character or name.

車夫

Handwritten text in a cursive script, likely representing a character or name.

人

~~~~~

乙

~~~~~

~~~~~

發

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



京都の商業の発展

明治の商業の発展

明治の商業の発展

明治の商業の発展

明治の商業の発展

明治の商業の発展

明治の商業の発展

明治の商業の発展

明治の商業の発展

明治の商業の発展

明治の商業の発展

明治の商業の発展

明治の商業の発展

明治の商業の発展

明治の商業の発展

明治の商業の発展







おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

おはようございます。



Handwritten text in a cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name.



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document.







○ 慶長二年

持りては、  
○ 慶長二年

○ 慶長二年

○ 慶長二年

○ 慶長二年

○ 慶長二年

○ 慶長二年

○ 慶長二年

○ 慶長二年

○ 慶長二年

○ 慶長二年

○ 慶長二年

○ 慶長二年

○ 慶長二年

○ 慶長二年















~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



Handwritten text in a cursive script, likely a name or title.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.



Handwritten text line 1

Handwritten text line 2

Handwritten text line 3

Handwritten text line 4

Handwritten text line 5

Handwritten text line 6

Handwritten text line 7

Handwritten text line 8

Handwritten text line 1

Handwritten text line 2

Handwritten text line 3

Handwritten text line 4

Handwritten text line 5

Handwritten text line 6

Handwritten text line 7

Handwritten text line 8



あまのこゝろをいかにいかに

いかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかに

いかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかに







谷中村にふるまはるる

あはれなる御心遣ひに

三條の御心遣ひに

あはれなる御心遣ひに

あはれなる御心遣ひに

あはれなる御心遣ひに

あはれなる

あはれなる御心遣ひに

### 夏哀傷

あはれなる御心遣ひに

あはれなる御心遣ひに

あはれなる御心遣ひに

あはれなる

あはれなる御心遣ひに

香川景敏の追悼に

あはれなる御心遣ひに



伊東祐命の追悼よ秋落しつゝ

こみさのむねひきまきこもるてあけりしよはたし林乃つむ

池田慶徳卿の追悼よ秋懐日さつ

うかきし林乃あけむねなこもるてあけりしよはたし林乃つむ

天璋院殿の追悼よ冬哀傷さつ

くもるてあけむねなこもるてあけりしよはたし林乃つむ

妻のあけりしよは

くもるてあけむねなこもるてあけりしよはたし林乃つむ

くもるてあけむねなこもるてあけりしよはたし林乃つむ

くもるてあけむねなこもるてあけりしよはたし林乃つむ

くもるてあけむねな

くもるてあけむねなこもるてあけりしよはたし林乃つむ

八月末迄

くもるてあけむねな

くもるてあけむねなこもるてあけりしよはたし林乃つむ

くもる







田中左衛門の妻おはんの御返

お夕へおはなせしお母おはなせしお夕へおはなせしお夕へおはなせし

お夕へおはなせしお母おはなせしお夕へおはなせしお夕へおはなせし

お夕へおはなせしお母おはなせしお夕へおはなせしお夕へおはなせし

お夕へおはなせしお母おはなせしお夕へおはなせしお夕へおはなせし

お夕へおはなせしお母おはなせしお夕へおはなせしお夕へおはなせし

お夕へおはなせしお母おはなせしお夕へおはなせしお夕へおはなせし

お夕へおはなせしお母おはなせしお夕へおはなせしお夕へおはなせし

お夕へおはなせしお母おはなせしお夕へおはなせしお夕へおはなせし

お夕へおはなせしお母おはなせしお夕へおはなせしお夕へおはなせし

お夕へおはなせしお母おはなせしお夕へおはなせしお夕へおはなせし

お夕へおはなせしお母おはなせしお夕へおはなせしお夕へおはなせし

お夕へおはなせしお母おはなせしお夕へおはなせしお夕へおはなせし

お夕へおはなせしお母おはなせしお夕へおはなせしお夕へおはなせし

お夕へおはなせしお母おはなせしお夕へおはなせしお夕へおはなせし

お夕へおはなせしお母おはなせしお夕へおはなせしお夕へおはなせし



間崎冬道卿一の若根社ありのゆゑ也

後せんたふらん

Heinrich Heine's *Die Harzreise* 一

Harzreise *Die Harzreise*

Harzreise

諸の... *Die Harzreise*

Harzreise *Die Harzreise*

Harzreise *Die Harzreise*

田井貞子のむらさき

Harzreise *Die Harzreise*

Harzreise *Die Harzreise*

Harzreise *Die Harzreise*

神 祇

Harzreise *Die Harzreise*

社 頭 水

Harzreise *Die Harzreise*



社頭祈世

~~~~~

裳着のいそひり

~~~~~

お平は殿の三郎君のうまれひんた

~~~~~

山階のみよ七十の清賀よ

~~~~~

信濃人の年賀ふ

~~~~~

老夫婦の賀り

~~~~~

あゝ人け屋敷の賀よ

~~~~~

三條公の清賀の~~~~~

寄董物祝の~~~~~

はしりてはるるのさしはぬれはるるひまりのさしはるるさしはるる

園基祥卿の姫君のうらまゝあたまもあたま

いとひり軒緯集のうらまゝ

軒ぬりてはるるのさしはるるおひびりてはるる

和田結雨の七十七のうらまゝ寄瓢箪のうらまゝ

あたまのさしはるるのさしはるるのさしはるるのさしはるる

あたまのうらまゝ寄酒祝のうらまゝ

あたまのうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝ

雜田田

海邊宗記卿の百餘のうらまゝ寄筆祝のうらまゝ

あたまのうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝ

佐々木松綱のうらまゝ寄歌祝のうらまゝ

あたまのうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝ

小津村持方の七十七のうらまゝ寄書祝のうらまゝ

あたまのうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝ

幸逢恭平世

あたまのうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝ

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index, consisting of approximately 10 lines of text.

雜目

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index, consisting of approximately 10 lines of text.

卷之三

Handwritten text in a cursive script, likely a list or a series of entries. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines, starting from the top left and moving downwards. The characters are dark and the background is light, making the text clearly legible.

Handwritten text, possibly a page number or a section header, located at the bottom center of the page.

Handwritten text in a cursive script, similar to the text on the left page. It is arranged in approximately 10 horizontal lines, starting from the top left of the page and moving downwards. The text is dark and the background is light.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

明治の終つた時傳はあつたはるはのむすこ
よやくの最後はゆるがせにうへにさうしうは今の九條ふよ
いひたむきなはあつたはるはのむすこ
たはるはのむすこはあつたはるはのむすこ
明治十四年より今に傳はあつたはるはのむすこ
いひたむきなはあつたはるはのむすこ
たはるはのむすこはあつたはるはのむすこ
いひたむきなはあつたはるはのむすこ
たはるはのむすこはあつたはるはのむすこ
いひたむきなはあつたはるはのむすこ

所報者よりいひたむきなはあつたはるはのむすこ
いひたむきなはあつたはるはのむすこ
いひたむきなはあつたはるはのむすこ
いひたむきなはあつたはるはのむすこ
いひたむきなはあつたはるはのむすこ
いひたむきなはあつたはるはのむすこ
いひたむきなはあつたはるはのむすこ
いひたむきなはあつたはるはのむすこ
いひたむきなはあつたはるはのむすこ
いひたむきなはあつたはるはのむすこ

いひたむきなはあつたはるはのむすこ

明治廿年の夏九條ふよはあつたはるはのむすこ

あつたはるはのむすこ

おのゝ給ひぬしにこそ〜一帯にお母の御心
はかり候へどもと見出候へ〜御池の香梅と云ふおのゝかゝり候へ
まゝに〜一帯の御心候へども〜御池の香梅と云ふおのゝかゝり候へ
思ひ候へども〜御池の香梅と云ふおのゝかゝり候へ
御池の香梅と云ふおのゝかゝり候へ
とて来て候へども〜御池の香梅と云ふおのゝかゝり候へ
〜御池の香梅と云ふおのゝかゝり候へ
〜御池の香梅と云ふおのゝかゝり候へ

はかり候へどもと見出候へ〜御池の香梅と云ふおのゝかゝり候へ
まゝに〜一帯の御心候へども〜御池の香梅と云ふおのゝかゝり候へ
思ひ候へども〜御池の香梅と云ふおのゝかゝり候へ
御池の香梅と云ふおのゝかゝり候へ
とて来て候へども〜御池の香梅と云ふおのゝかゝり候へ
〜御池の香梅と云ふおのゝかゝり候へ
〜御池の香梅と云ふおのゝかゝり候へ

年父の女高崎正風君との間に於て東京に生れし是より
 正風君を以て父と稱し居りて母を以て母と稱し居りて
 おもひてお内省より出はしつひよ今女よりいふにわづらひ
 してその事より入カりてこころに思はれし事よりいふに
 風をうけておりつゝいふにわづらひし事よりいふに
 一はつひも浅きなりし未だの事いふにわづらひし事より
 しく病よめる明治廿年十月廿五日東京に生れし遺傳より京
 都二條鴨川の東園名寺に築くや一姓は平景敏に其名父に

陸奥介景恒母中川氏景樹翁の嫡孫なり宛より時廿七の
 子なり第秀五郎と名をけり

久方の月桂と名をけり

明治二十七年三月十五日印刷
同 年同月廿二日發行

定價金九拾錢

東京市小石川區小日向水道端町七十五番地

著作者

小 出 祭

東京市上京區柳馬場御池下柳八幡町七番戶

發行兼
印刷者

文石堂 北 村

豐 田 印

版權所有

販賣所

大坂市心齋橋安土町南

鹿 田 静 七

東京市京橋區南傳馬町壹丁目

吉 川 半 七

東京市神田區連雀町十八番地

志 行 所

